

講義名	卒業研究
講義コード	44078
担当教員	福井 誠
開講期・曜日・時限	通年 木曜日 4時限
備考	

ゼミ
全学
学部
経済学部、商学部、人間社会学部
学科

演習名
福井誠ゼミナール（経営情報学・社会情報学）

概要説明
<p>ITを活用する</p> <p>パソコンや携帯電話が最新技術だという認識はすでに皆さんにはないと思います。携帯電話も高性能なゲーム機も子供の頃からお小遣いで手の届くガジェットだったとおもいますが、パソコンも事情は同じになりました。このような現象をコモディティー（日用品）化と呼びます。コモディティー化は普及に成功した新技術がいつかは迎えることになる運なのです。</p> <p>これは企業にとっても同じです。企業経営に情報システムはなくてはならないものだけど、気にかけるほどでもない、そのような存在になりつつあります。</p> <p>ただし「コモディティー化」と「不要になること」は違います。ITはコモディティー化したことで、電気やガスのように日々の生活に欠かせないものとなったのです。今の社会では、新しい技術を身につけることよりも、その使いこなしの能力が重要になります。</p> <p>より効果的で洗練されたITの使いこなしを見つけて実践する。これが福井ゼミの活動目標であり、ゼミの活動を通して身につけてもらいたい能力でもあります。</p> <p>この目標を達成するため、ゼミでは以下のようなステップを想定しています。</p> <p>2回生では、問題を発見し解決するためのボタンをできるだけたくさん自分のものにするトレーニングを主として行います。また、ユーザーとしてのITスキルとITを使ったコミュニケーション、スキルを高めるトレーニングをしたいと思います。</p> <p>3回生では、これらの手法を使って、社会の様々な問題を実際に解決するフィールドワークに出るとともに、自分の問題意識を見つめて卒業論文のテーマを見つけてもらいます。</p> <p>4回生ではこれらの活動の集大成として卒業論文をまとめてもらいます。</p>

学位
博士（人間文化学）

教員よりの要望
私は皆さんに風が吹く前に風を感じるような、問題に気づく感受性を育ててもらいたいと思っています。そして自分だけで解決するのではなく、他の人の力を借りながら実現する実行力やプロデュース力を身につけてほしいと思っています。

教員英字氏名
fukui

研究室
314研究室

最終学歴
関西大学大学院社会学研究科 博士課程前期修了

主な研究活動・社会活動・研究業績
<p>研究活動： 企業や行政の情報化を扱う「経営情報」と地域や社会全体の情報化に関わる「社会情報」、そして心理学、その中でもとりわけリスクコミュニケーションや社会的かしこさを研究領域にしています。今ははらばらに研究を進めていますがいずれこれらの研究を統合できればいいと思っています。</p> <p>社会活動： 神戸市を中心にITをキーとした社会連携プロジェクトを複数やっています。地域のことと、ITの利用がかみ合うと良いのですが、どちらか一方だけの場合でも興味があるプロジェクトには関与するようにしています。</p> <p>3年前から東北の地震の支援活動を中心いくつかのプロジェクトを続けています。神戸を中心とした地域、いくつかの企業との社会連携、商業高校との高大連携なども手がけています。</p> <p>研究業績： いるいるな領域の研究に興味があるため、専門がわかりにくいといわれますが、最近5年間の論文を示しますので、どのようなことをやっているのかみてください。</p> <p>「甲子園大学の宝塚における地域連携・逆瀬川での介護予防事業を事例として」甲子園大学現代経営学部紀要6第33号 「ICタグによる福祉施設内での利用者・介護者の行動モニタリング」医療情報学 Vol.25 「Possibility of IC Tags in the Medical and Welfare Field」2006,Mobile E-Health for Developing Countries 2006 8th International Conference on e-</p>

主な卒業論文のタイトル
島内外居住者の認知ギャップから淡路島の地域ブランドを考える。
講義の理解度と着座位置との関係
須磨における海岸文化の創出と地域再生への取り組み

趣味・特技
飽きっぽい性格なので趣味と胸を張っていえるようなものはありません。しいていえば、散歩やドライブ、というより知らない場所をうろろろすること。おいしいものを食べ、おいしいお酒をのむこと。おいしいものが好きなので料理もします。一度食べたものなら味を再現することができるのがちょっとした自慢です。なので、たまに再現できない料理に巡り会うと感激します。ただしおいしいものだけです。料理の材料も自分で調達したりもします。以前は伊川谷で野菜も栽培していましたし、魚釣りをしたりもしましたが、最近ではあまりここまでこだわりません。

所属
経済学部

所属学会
経営情報学会、日本情報経営学会、日本心理学会、社会心理学会、組織学会ほか

専門分野
経営情報、社会情報、社会心理学

選考方法
選考は、演習申込書、面接、成績によって決定します。
成績は参考にしますが、成績が良いことが絶対条件ではありません。ゼミの募集でも多様性が重要だと思います。ですので、成績がよいにこしたことはありませんが、面接を重視して多様な個性があつまる場所にしたいと思います。成績の悪い人、取得単位数の少ない人はその理由を志願理由に添えてください。

担当科目
情報通信産業論、流通情報システム論、情報コミュニケーション特講、ネットコミュニケーション論、特別クラス、オフキャンパスプログラム、プロデュース論(特講)

備考

評価方法
まず基本は出席です。もちろん欠席・遅刻は減点の対象となりますし、無断欠席や遅刻は厳禁です。遅刻欠席がないことをベースに、ゼミ全体での活動やグループ活動での貢献度と各自のテーマに沿った報告・レポートなど個人的な活動実績とを総合的に評価します。